

「^{せじきえ}施食会」という法要は、一般には「^{せがきえ}施餓鬼会」とか「^{せがき}お施餓鬼」といわれる法要で、「^{がき}餓鬼」と呼ばれる^{むえんぶつ}無縁仏（誰からも供養をされずに苦しんでいるもの）を供養して、その「^よ善い行いの力をご先祖さまに^{めぐ}廻らし向ける法要」です。

さて、この事は法要だけのお話なのでしょうか？

現代の価値観は、お金が最高に信じられる物として位置づけられ、人間関係などが軽んじられている傾向にあります。先の震災でその価値観について問われたり、気付いたり、考え直された方も多かったのではないのでしょうか。お金が無ければ、何の商品も手に入れる事は出来ませんが、お金をはらう相手がいなかったり、買う物がなければ、お金があってもなにもできないのです。

「私」だけではなく、「この人」も「あの人」も「親」も「子供」も「孫」も、『いのち』あるものは全て、周りの人々や物との関係、『^{えん}縁』によって^{つな}繋がりに助けられています。お互いに支えあっているのです。その支えあいは隣の隣にも繋がりに、その隣はそのまた隣へと繋がりに、果てなく無限に繋がっています。すべては関係しあい、支えあっているのです。それらが変わっていくことで、その繋がりの形も様々に変化してゆきます。

繋がりが変わると「あなた」の存在そのものの存在価値も変わります。そんな移り変わりの中に私たちはいるのです。

それなのに私たちは、その繋がりを軽んじた行動をしたり、「関係ない」という言葉を口にしたりしてしまいます。そのような常に移り変わる『^{えん}縁』の中で、今『ある』という有り難さに気付く事は大切な事なのです。そして、自分の近くにいなくても、共に今ある世界を作っている無数の人や物に感謝する事を忘れてはならないのです。

普段は関係ないと思っている、存在すら知らない人や物に改めて感謝する機会が「施食会」という法要でもあるのです。